

プログラミング・同演習ガイドンス

I. プログラミングの到達目標

- Eclipse を用いて Java 言語プログラミングの基本をマスターする。
- より高度なプログラミングについて、市販の参考書等で自学自習できるレベルに到達する。

II. 講義・実習の進め方

- ① 配布テキストに沿って各自が個々のペースに応じて学習を進めることができる「自学自習形式」を基本としています。テキストについては「Ⅲ. テキストについて」参照。
- ② 皆の指導には、本学部の先輩学生からなる補助員が当たります。目安として学生 10 名あたりに 1 名の補助員、そして 30～40 名あたりに全体を統括する 1 名の補助員がつかれます。したがって、30～40 名の学生を「統括補助員 1 名＋担当補助員 3～4 名」のグループで担当する事になります。
- ③ テキストには【基礎課題】と【応用課題】が用意されています。課題を完了したら担当の補助員のチェックを受けてください。チェックを受けなければ課題を提出した事になりません。なお、課題はあまりためずに、毎週きちんと提出するよう心がけて下さい。課題を数週間分ためて一度に提出する学生がいますが、そうすると課題チェックに時間がかかり、他の学生のチェックに支障が出ますので、その点注意して下さい。
- ④ 疑問な点がある場合は、補助員に質問できます。課題の答えそのものを教えることはしませんが、考え方を親切に教えてくれるはずですよ。
- ⑤ 担当補助員は座席配置によって割り当てます。そのため、演習中は指定した座席に座ってください。座席配置についてはプリントにまとめ、10/10（金）昼休みの時間に D201 講義室の教卓の上に置いておきます。各自それを受け取り、その座席配置にしたがって着席して下さい。
- ⑥ 出欠は、担当補助員が行います。講義開始後 30 分以内に着席していない場合は（遅刻ではなく）欠席として扱います。また、演習途中で、無断で退出した場合も欠席となりますので注意して下さい。→ テキストの【基礎課題】および【応用課題】を全て提出した学生は、以降の実習は無条件で全て出席とします。出席と成績との関係については、「Ⅳ. 成績評価」参照。
- ⑦ 課題提出の進行状況や特に注意を要する点についてのアドバイス等は、毎週の授業の始めに講義形式で解説します。
- ⑧ 質問に対する回答や、テスト内容や結果の講評等を、適宜ホームページに掲載します。アドレスはシラバスに示したとおり「<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/HIKO/Prog>」です。
- ⑨ その他、プログラミングに関する質問や要望があれば、遠慮なく森田（C-514）まで申し出て下さい。

Ⅲ. テキストについて

- ① 第0章～第8章まであります。第7章までを必須の内容とし、第8章は選択とします。この考えにしたがって、基礎課題は7章まで用意し、8章は全て応用課題となっています。成績との関係については、下の「Ⅳ. 成績評価」を参照して下さい。
- ② ビジュアル環境を活用して、変数などの概念を視覚的に把握できるよう配慮しています。
- ③ 2001～2007 度のテキストについてもホームページに掲載しています。2001 年度は Delphi、そして 2002 年度については Delphi と C++Builder を並行して学習しました。そして本テキストはそれらの学習内容に準拠しているので、本テキストの学習後は、これらの言語についても（同じ要領で）学習することができます。

Ⅳ. 成績評価

- ① 単位取得の必須条件 I－出席率

出席率が7割未満の場合は、単位を取得することができません。具体的には、5回以上欠席すれば、単位取得の資格はなくなります。

- ② 成績評価

履修要項に記載した通り、2回のテスト（11/14、12/26を予定）の平均点と「未提出の基礎課題数（1題1点）」および提出した「応用課題数（1題1点）」で、次の様に評価します。

$\text{成績} = 2 \text{ 回のテストの平均点} - \text{未提出の基礎課題数} + \text{提出した応用課題数}$

※ 基礎課題は全て提出する事を想定しているので、未提出の課題がある毎に減点し、一方応用課題は提出した分だけ成績に加点する、という考え方です。

注意 成績が50点未満の場合は単位を取得することはできません。テストの得点が足りない場合は、応用課題の提出で挽回して下さい。

Ⅴ. その他

- 演習中、少し時間のかかる質問や、テキスト内容について詳しく説明して欲しい、という要望がある場合は、随時森田まで尋ねてください。演習中は、講義室内を巡回しています。
- 必要に応じて課題提出状況の中間チェックを行います。そして提出状況の思わしくない学生については情報ポータルの個人伝言等で注意します。改善がみられない場合は、単位取得に影響することがあるので、注意してください。
- プログラミングの力は、“どれだけ自分の頭で考えたか”で決まります。安易に指導員や補助員に答えを求めるのではなく、“まず自分で考える”という習慣を身につけてください。
- 「データ構造とアルゴリズム論・同演習」を履修する学生は、本科目の単位取得が必要

です。

<本日行うこと>

0. プリント「Eclipse のインストール」に従い、これからプログラミング演習で使用する所定の環境設定を、各自の携帯パソコンに行ってください。→ 2008 年度入学生は必要ありません（次の 1 に進んで進んで下さい）。
1. テキストの第 1 章 1-1（p.7～12）に従って、プログラム作成で使用するソフトウェア「Eclipse」を起動し、動作の確認と所定の設定を行ってください。
2. 下のチェックシートに所定の事項を記入し、提出して下さい。

<来週までにやっておくこと>

第 0 章の内容を読んで理解しておいて下さい。

※ 次回（10/10）は、1-2 節以降の課題から始めます。

----- 切り取り線 -----

プログラミング・同演習 チェックシート

2008 年 10 月 3 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

以下のチェック欄にチェックし、最下欄に、これから「プログラミング・同演習」に臨む抱負を書いて下さい。

1. 携帯パソコンへの所定のインストール作業は完了しましたか（2007 年度以降の入学生のみ）？ ☐ 完了した
2. テキストの第 1 章 1-1 節の内容について動作確認しましたか？ ☐ 確認した
3. プログラミング・同演習に臨む抱負を記述して下さい（要望を記述しても結構です）。